



養蚕秘傳書

全

30

原田織維文庫  
文庫4  
704



文庫4  
704



素よりるを先出又せんといふたぬ

養生れあはけり

早稲田大学  
図書館蔵書

原田織文庫

をいへん中日茶湯又取物一氣のいもいもや  
あまゆみうもいもたなごいもあまゆみ  
きもきもいもいもいもいもいもいもいもいも  
船始上下急糸をほけて一日うらうらふうくあ  
つりあまゆみいもいもいもいもいもいもいも  
わづかやれいもいもいもいもいもいもいもいも

昭和三年十月二十九日  
第一商学部より移管

早稲田大学図書館  
011488480172

上より下へ行くに早くのきをみいひ早く  
 出るやうにせうく一層より早くと春を一度よむと  
 出るやうにかけんをくこしとんえりよむと伝達の  
 中よりまても八十八般前後おは春生れ出るやうに  
 けいれみきさるとして日のてるおふをさるるをい  
 くとい中より入又とよむとぬい入ふはみあはし  
 央のふくしよふをさるるにさうよ種成あはれんて  
 むらよりおふんとすらやるるにあましとん性  
 ちせんよまかせたぬおみかちをさつと春  
 があつてもこまむるの九つ時日のあつてうらむる時  
 をい合せたぬをいさるあしとみあはし  
 くとお是をさつみ又さうくとをさるるをい  
 やりのやうにさるる物さつとつみあは  
 うとこ又いりりした枯の物入少く央氣の

ゆくりのうらみあるあはれなき海にそれよる白  
小波之波つづみ種成りりむらけいそを  
入又いと好くはみよき重くけしあええ  
あつとあちしり夏天のそらよのふか  
しきかあしりふはなだきい松葉の  
るぶあはれはあら木たぐ登り  
又ふしよふたふしのむらげいあはれ

ふしりあはれいふはなだきい松葉の  
るぶあはれはあら木たぐ登り  
又ふしよふたふしのむらげいあはれ  
あつとあちしり夏天のそらよのふか  
しきかあしりふはなだきい松葉の  
るぶあはれはあら木たぐ登り  
又ふしよふたふしのむらげいあはれ  
あつとあちしり夏天のそらよのふか  
しきかあしりふはなだきい松葉の  
るぶあはれはあら木たぐ登り  
又ふしよふたふしのむらげいあはれ

くのの花をこりて春ふくすもさゆりあり元來もとより  
 むるべしといふ素のこふて種ふしむるをいつの春の  
 しよくするは素のついでするもとあるよ——さ——よ  
 春そらめとまけよとよくつへ彼素花の露なく  
 よしむるもあはれむかしてゆいさ——しむるも  
 是ぞよ——とそ——又みえ。づみさをさると種一投  
 の春ふあふむに合ふよ——あはれ——さ一投  
 の春す方もあ——と見え——ら——るあふむに合  
 らとよ——あ——生れ——春多すふ——向せ太は  
 しむるもあはれむかしてゆいさ——しむるも  
 かしらよまむ——あ——むかしてゆいさ——しむるも  
 九つふあつみ——春を取ち——何のうらふても  
 そらふゆせのまじりあつとよもく種ふえ合せあり  
 てきつふふうとせ——あ——むかしてゆいさ——しむるも





そしちて蚕下せ切初りくづし是き前  
手入連のくびざり蚕のおりせうい  
かびお末さるためけしそよざりまほ日葉を  
あしよるましくふそしとわつて蚕のつらさおら  
きくくくくくくを後葉せむしよめおふ  
めりうけくるまきしゆ取夫つそ蚕下せ  
りつらえ蚕のうくふあふ絶すぬら残か

づそりくとめりうけ蚕てしそ葉残くるす  
なし是も蚕下せうい子んうた先より蚕出  
四五日あひぶそきたんのかけん別しそせらるり是  
より七八回の手入れあはれそ後小色このやま  
おるよし大其とすそざり又らそまういの時  
小風来れハソりそ葉残捨て又も蚕消絶す  
なしぬら育し又らしそすそらあしそ





早く製せし早さう——素葉をせあひく——蚕のこゝろ  
おひしゆをや——又あるくあて久——や——か——蚕を  
ガ——糸をよとめて性り——か——をこ——をのめ——  
さし初はまのすうり取らぬ不割ひきき口方目位始  
こぞ——よそをひまのこ——種を救の蚕小素葉を  
の切指五六合程用ぬ——生れ——る蚕はく——く小素葉  
相と小こりのせやうく産——物る時を生れたる  
くろく蚕葉をよにこりらがるやうに是をわきまこ  
ろくあてきりくふくをこり取茶のこくうくく小素葉  
ぬくせりきうく小紙を——は是ふくをり入下  
け時種を救の蚕をわきまを之天日方くく小素葉  
こくうくくちこ——を——又紙小取つきたる  
蚕は是も前れ——く——く——く——く——く——く——く——く——  
つたる記前を——思ふ救多くをよび——蚕をよ

子あへずくはれ合思別く不ましく 蚕の音無に  
あそあ六日ひさるふよあましく 葉をくはせるふ  
む下りるが又い蚕の厚うへう家ひやあかんあ  
こつ何あまをかて抜けゆらん有れもたらまら蚕  
あそろへと女性無くなましく ちよとあましくいあ  
か 國ふくちひありらん國をさく だんえんを  
いあ 國をさく 冷いあましく まる日葉

かきす前にあそこさく 蚕をわくあま  
か 不くまうり 蚕こそあの後葉減く百子なるあ  
天の日の高ねあく上りるさく 蚕の音  
あそあ二日目より八日かけしそましく  
一日ふあ之夜つるさく 蚕を  
せ切蚕の厚さあせう中ねあくあ  
あま 蚕生れくあ





心くしてよー又素直な心でお店らから  
帰るうも取立てよーあぢーあぢーのおお  
私のおきまをぬきりごりあるたえつこにす  
ぬら流子登ーつらぶらん前あこーあ  
のこみりあーてありうをぬれをーごく  
ふらうらとあもあをぬれーは妙なたる春れん  
よるあつあよりぬるつ道すそのきまふあつ

あぢーけつやーあふあふあぢーいた  
あーあを焼うんあを春小茶なるり又  
あもあぢーあすあああーあぢーあ  
あまこいあうてああ春を風てあ  
あをぬれともあをくらんあああ  
ああああああああああああ  
ああああああああああああああ

のすゝかよひ紙あてたる厚しすゝまのせに  
みよしと基をた物なりまをたけけこらよか  
けんすくし蚕出ろ七八日より十五六日たれさか  
ら蚕そそとさへん手入連たれゆらんそ高た  
むらさきし文をけしんせんこよえのこ  
ら思ひあすいしころそ大せうこ

蚕小出まさらん位のま

蚕節こま子たけけをりて一なるまをけろそ人日  
方のつありふせにめんのしりせんるてま  
まみえのり程厚くするま性悪くやま振えそ  
てたてく一切の他物よも厚く撫連ふあてん  
実今も熱うつこもるうの成人と蚕よすてあら  
とりのよろこく一日ふ一度漸本度程葉残つてく  
るゆ大方のまをたれあ葉のありぬやと

あつむらうしてゐるやうなやうな女の性あつた  
大小お揃ふるゝ顔方の口傳を覚え本流をとりて  
やうく甘は申しつゝおつちまはさすやうにえり  
套ハ情を傳へるまじいあつちよりの者の忠とあつた  
其せうとせうと飲めく葉も我前ふらゝぬえん  
束ふらゝるゝ彼方けちあつちまゝにやゝとそ  
つちまゝにけりせうとくすゝきやうを付葉流  
のけりせぬおむらゝるゝ植ふまゝにやゝとあつち  
ふらゝるゝ親套も背れるゝ又大植ぬ套もあつち  
彼厚領ふあつちけりせたら若女套よりゝ套のく  
おのけりせ葉を喰ふやうに下あれゝよゝあつち  
葉くあつちけりせたら若女套よりゝ套  
外けりせ結うゝをた葉をあつちけりせたら若女套十分  
葉流喰ひ下ふゝぬゝ植ふまゝにやゝとあつち



分りぢい 冨下なる 茶葉と 一なる じい じい じい  
よなる 茶と じい じい じい じい じい じい  
や じい じい じい じい じい じい じい じい  
う じい じい じい じい じい じい じい じい  
よ じい じい じい じい じい じい じい じい  
よ じい じい じい じい じい じい じい じい

あつた じい じい じい じい じい じい じい じい  
程の 善悪と 冨方の 印拙と じい じい じい じい じい じい  
じい じい じい じい じい じい じい じい じい じい  
冨方 じい じい じい じい じい じい じい じい じい じい  
の道 じい じい じい じい じい じい じい じい じい じい  
とも じい じい じい じい じい じい じい じい じい じい  
と じい じい じい じい じい じい じい じい じい じい

別あり物也え夫不サしと及そそく人カれた  
らひある事程然しうけしととあしとる人をみり  
ふ佛非も祈り放るる程えとうとここのありのたか  
らとせせ人せあここのかこらさしととる人あは佛  
非も人の祈ひふよそかじし海もませとも其身  
うひうこ小禱ひらなれをいつとせん幾度も切苦の今  
たら子幼方誅つあやなくんそたしひせり一統いっとう事  
佛の年サりしとととれ意の佛とましくと事ゆはけ  
ふくちひあそく年一巻不佛志し事  
ある國ふていとうひととあそととる其の地  
いしうよりあゆみの百姓不棄せはくせと  
何れともは道不り人内なれは本國より一書と  
はく其書ふなふてお書卷をらよ打續うちつづさ七八年と  
不しくしとるたの換失るしうは五人たはふりみつ

れて心なきいし地を奪ふ所の事なればよき事なり  
此の業の本も切掛る事にして不孝人の事なれば  
そなたとよふこと人の事近き地はよき事なれば  
て奪取をもともえより不業内の事なれば本國より  
一書と求む是とんらふ事書ふ事むしうしう事な  
ある人奪の節方をためし事と是の只種之教せる  
目よ出し事取は産取の事しう事と節むしう事

みるふよかひのりしう事ある所しう事やむしう事奪の節  
又幸ふ生立取の奪より又六日早く成又産取の事  
しう事やむしう事志奪はる事しう事不抄しう事  
又先の奪より七八日之後れ何しう事やむしう事  
えんしう事彼二志のりしう事ある事にて書六月廿一奪  
とる事のおりしう事屋敷のほら俄しう事あり後  
とるしう事不抄せり又納たむ事なてしう事奪はる事

ちりり 是はまゝいぢれをこのすゝゝゝゝ 産しゝゝゝ  
 ちりりゝ 蚕ハ後程あつておほひのふてこ小柄な  
 天晴上代せつと結え蚕ハ冷しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ゝゝゝゝの人のあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 小切のゝゝゝゝのたし手滑失せ又少ゝ 蚕は毛  
 けり 性悪くちりりけりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 も上代せゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝの換失せゝゝゝゝ 而詮けあ  
 へ蚕ハ産後おとせとえぬれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 とゝゝゝゝ容ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ちりりゝ ちりり 其次ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ちりりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ちりりゝ ちりり 東すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ちりりゝ ちりり 産後ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ちりりゝ ちりり 家産ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ちりりゝ ちりり 風てりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ちりりゝ ちりり 氣の海ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

茶もあつらふおそく冷しはく物なりしやま  
おろし人茶玉とて冷しはく子小<sup>つゆ</sup>裕<sup>ゆ</sup>草<sup>くさ</sup>もあつらふ  
とあつらふ氣<sup>き</sup>必<sup>かなら</sup>ずしそだんののちん<sup>ちん</sup>と其家<sup>そのいへ</sup>作<sup>つく</sup>る  
ぢり<sup>ぢり</sup>類<sup>るい</sup>といふに冷しはくおれそしやらぬ  
左茶<sup>さちや</sup>玉<sup>たま</sup>子<sup>こ</sup>の中<sup>なか</sup>小<sup>こ</sup>をさふ<sup>さ</sup>堪<sup>た</sup>に<sup>に</sup>死<sup>し</sup>するも<sup>も</sup>り<sup>り</sup>残<sup>のこ</sup>り<sup>り</sup>茶  
の性<sup>しやう</sup>悪<sup>あく</sup>く<sup>く</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>し<sup>し</sup>い<sup>い</sup>有<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>人<sup>にん</sup>教<sup>しやう</sup>て<sup>て</sup>出<sup>で</sup>の<sup>の</sup>る<sup>る</sup>ハ<sup>ハ</sup>サ<sup>サ</sup>人  
が<sup>が</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>す<sup>す</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>も<sup>も</sup>た<sup>た</sup>ん<sup>ん</sup>卒<sup>そつ</sup>な<sup>な</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>徳<sup>とく</sup>也<sup>や</sup>の<sup>の</sup>生<sup>せい</sup>氣<sup>き</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>  
おせりて<sup>おせりて</sup>飛<sup>と</sup>鳥<sup>ちやう</sup>茶<sup>ちやう</sup>も<sup>も</sup>是<sup>こゝ</sup>小<sup>こ</sup>お<sup>お</sup>る<sup>る</sup>一<sup>い</sup>く<sup>く</sup>ふ<sup>ふ</sup>又<sup>また</sup>二<sup>に</sup>ツ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>心<sup>こゝろ</sup>も<sup>も</sup>あり  
う<sup>う</sup>ん<sup>ん</sup>氣<sup>き</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>む<sup>む</sup>も<sup>も</sup>て<sup>て</sup>む<sup>む</sup>す<sup>す</sup>は<sup>は</sup>り<sup>り</sup>も<sup>も</sup>氣<sup>き</sup>の<sup>の</sup>物<sup>もの</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>て  
ぬ<sup>ぬ</sup>し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ふ<sup>ふ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>裕<sup>ゆ</sup>お  
や<sup>や</sup>も<sup>も</sup>氣<sup>き</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>む<sup>む</sup>も<sup>も</sup>か<sup>か</sup>え<sup>え</sup>り<sup>り</sup>や<sup>や</sup>り<sup>り</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>  
あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>も<sup>も</sup>茶<sup>ちや</sup>は<sup>は</sup>父<sup>ちち</sup>母<sup>はは</sup>の<sup>の</sup>赤<sup>あか</sup>子<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>者<sup>もの</sup>を<sup>を</sup>え<sup>え</sup>り<sup>り</sup>  
茶<sup>ちや</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>し<sup>し</sup>お<sup>お</sup>も<sup>も</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>も<sup>も</sup>  
う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>も<sup>も</sup>茶<sup>ちや</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>其<sup>その</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>も<sup>も</sup>

して其後上へ上へ作すこと

春はのにおろすに申入るの事

春を越すより七八日ばかり葉と花やらちがう白くがら  
ら物をもゆるぎをせざるの休といふにけは早くぬり  
せりりてしりし物初めつたおろすにいとさうして  
このわが前見紅葉とてたまよあらぬてくぬぬ  
すのわいのぬるを春の上ふ薄くなりぬる葉の切

こなりくぬりし花すは春のまよ上ぬ葉にさしよふ  
二枚葉とてぬすまおろすにいとさうしてけは  
たまよぬりてのりぬる春は中よぬる  
もを中よぬるにさしよ又今をたぬの上へす  
まよすたるに上なるよぬるに  
たるの上よぬるにぬるにぬるにぬるにぬるにぬる  
さうしてぬるに春をぬるにぬるにぬるにぬるにぬる

おとよの葉を二日七の夜よりけしむ  
及しうのてしす時 套葉は下ふおのりて毒ぞ  
くそのはしむはふは葉とていふは  
うけしうのてしす時 套葉は下ふおのりて毒ぞ  
おとよの葉を二日七の夜よりけしむ  
及しうのてしす時 套葉は下ふおのりて毒ぞ  
くそのはしむはふは葉とていふは  
うけしうのてしす時 套葉は下ふおのりて毒ぞ  
おとよの葉を二日七の夜よりけしむ  
及しうのてしす時 套葉は下ふおのりて毒ぞ  
くそのはしむはふは葉とていふは  
うけしうのてしす時 套葉は下ふおのりて毒ぞ  
おとよの葉を二日七の夜よりけしむ  
及しうのてしす時 套葉は下ふおのりて毒ぞ  
くそのはしむはふは葉とていふは  
うけしうのてしす時 套葉は下ふおのりて毒ぞ







春たる國にばどしは仕はあり其國のちて  
ゆきて先よりおれにたてたてはるまの  
ゆきのちてゆきておれにたてたてはるま  
てまのちてゆきておれにたてたてはるま  
春たる國にばどしは仕はあり其國のちて  
ゆきて先よりおれにたてたてはるまの  
ゆきのちてゆきておれにたてたてはるま  
てまのちてゆきておれにたてたてはるま  
春たる國にばどしは仕はあり其國のちて  
ゆきて先よりおれにたてたてはるまの  
ゆきのちてゆきておれにたてたてはるま  
てまのちてゆきておれにたてたてはるま  
春たる國にばどしは仕はあり其國のちて  
ゆきて先よりおれにたてたてはるまの  
ゆきのちてゆきておれにたてたてはるま  
てまのちてゆきておれにたてたてはるま  
春たる國にばどしは仕はあり其國のちて  
ゆきて先よりおれにたてたてはるまの  
ゆきのちてゆきておれにたてたてはるま  
てまのちてゆきておれにたてたてはるま

かやふやふれかおんのも事

春たる國にばどしは仕はあり其國のちて  
ゆきて先よりおれにたてたてはるまの  
ゆきのちてゆきておれにたてたてはるま  
てまのちてゆきておれにたてたてはるま  
春たる國にばどしは仕はあり其國のちて  
ゆきて先よりおれにたてたてはるまの  
ゆきのちてゆきておれにたてたてはるま  
てまのちてゆきておれにたてたてはるま  
春たる國にばどしは仕はあり其國のちて  
ゆきて先よりおれにたてたてはるまの  
ゆきのちてゆきておれにたてたてはるま  
てまのちてゆきておれにたてたてはるま  
春たる國にばどしは仕はあり其國のちて  
ゆきて先よりおれにたてたてはるまの  
ゆきのちてゆきておれにたてたてはるま  
てまのちてゆきておれにたてたてはるま

此の如く時を待てば其の如く入るるに類して其の如く春出る  
 ちやうど其の如く其の如く言ふに少くはるる如く又春  
 すくばるるに其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
 人の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
 其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
 其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
 其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

此の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
 其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
 其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
 其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
 其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
 其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
 其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
 其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

くまをなす——うまうまを巻のおう——うまうまをなす  
おき付およぶまうぬを巻のうまうま——うまうま  
ゆりて編葉をくまうま——おう——うまうまを巻葉をく  
くまうまをくまうまのおまうまのまかうり巻うまうま  
おけ前のくま葉をくま——止——細をうま巻おめく細  
おれ圓を前よりうまうま——くまうま——くまうま巻葉を  
くまうまを拾ひえぬうま——巻はうまうま——くまうま巻葉を  
又拾ひお——巻は巻は葉をくま——くまうま巻葉をく  
付おまうま——くまうま——巻は巻は葉をくま——くまうま巻葉をく  
は時を休め葉をくまうま——くまうま——くまうま巻葉をく  
くまうまをくまうま——くまうま——巻は巻は葉をくま——くまうま巻葉をく  
くまうまをくまうま——くまうま——巻は巻は葉をくま——くまうま巻葉をく  
くまうまをくまうま——くまうま——巻は巻は葉をくま——くまうま巻葉をく  
くまうまをくまうま——くまうま——巻は巻は葉をくま——くまうま巻葉をく  
くまうまをくまうま——くまうま——巻は巻は葉をくま——くまうま巻葉をく

新  
毎に休む風しり巻葉をくまうま——くまうま巻葉をく  
くまうまをくまうま——くまうま——巻は巻は葉をくま——くまうま巻葉をく

私のおりこもいまだあらず

私のおりこもいまだあらず

私のおりこもいまだあらず

私のおりこもいまだあらず

私のおりこ

私のおりこもいまだあらず

私のおりこもいまだあらず

私のおりこもいまだあらず

私のおりこもいまだあらず

私のおりこもいまだあらず

私のおりこもいまだあらず

私のおりこもいまだあらず

私のおりこもいまだあらず

私のおりこもいまだあらず

私のおりこもいまだあらず

ひもりしほ〜そとつよ〜まの春に花も  
わく不修せ〜友葉はるる人下並下るる系は〜  
くちんしひのい〜花上枝〜るるのい〜花  
え〜と花葉入花ゆ〜への道はら花あ〜  
〜のい〜花のい〜花〜花〜花〜  
すも花あ〜  
花か〜のい〜花〜花〜花〜花〜  
.

あまら〜花あらむわの〜花と花はあまこ〜花とあ  
あ〜花〜花〜花〜花〜花〜花〜花〜  
花あらむ花〜花〜花〜花〜花〜花〜  
えと〜花の人青て〜花〜花〜花〜花〜花  
る花〜花〜花〜花〜花〜花〜花〜  
あ〜花〜花〜花〜花〜花〜花〜花〜  
あ〜花〜花〜花〜花〜花〜花〜花〜  
あ〜花〜花〜花〜花〜花〜花〜花〜  
あ〜花〜花〜花〜花〜花〜花〜花〜

月黒氣つきくろき 屏びん 劍けんの事こと

りりし番にいまは志しき津をくわしつそはのち  
 うまふしつひちふちふ痛み 毒りりあつことお  
 の老らるりていりあふんやまらひ異よらうつ  
 ありあふもらうと志りんめあうらした戸はこた  
 うみかりしそなはらうらむけてぬか入建志うけ  
 の登れまふも異よこし備守りあらとしりあふ  
 何なにも異よ氣きのあふしり人七かあふりこのる能の

のとあしつゝのたりのかよて異よを志のたし  
 しあもあふしつゝのたりのせはなうらふ  
 ありしよのあふのあふあふのあふあふあふ  
 何なにも登のぼりよる

上かみのあふしつゝのたりのせはなうらふ  
 ありしよのあふのあふあふのあふあふあふ  
 りりし番にいまは志しき津をくわしつそはのち





乃一是より別として上輩をよむはつとすの輩は漢  
宗管せし一書ハ其の原々系<sup>いふ</sup>味多し一は別として  
初一輩成りては種原ありて及

又いふにわづらひて大考せしる全<sup>いふ</sup>平生<sup>いふ</sup>業<sup>いふ</sup>終  
つとるにその世の海も世をなれし休みの程も業  
と云えりしは管せし一々の人同し何ぞ  
もろもろ別なはれしは一々ののみ書

あつたものもやうに候へしは時業不足<sup>いふ</sup>はれしはも  
小く<sup>いふ</sup>ふしと業をすくも一也<sup>いふ</sup>終<sup>いふ</sup>るし一是の  
もろもろを全すしは其のほるもろもろ也<sup>いふ</sup>業を  
其の原より廿三度管せしなりと一は人々  
も入る原より其の少しから其の多し  
あつて其の也<sup>いふ</sup>終<sup>いふ</sup>るし一は其の也

相違ありしは其の也<sup>いふ</sup>終<sup>いふ</sup>るし一は其の也

ホツリものを作しとすころ所をたるのゆゆむ巻を  
相圖こそおもほゆるかやも先り下りてを  
申しあしちとむらうのうりそ成す程打たて  
て申すらぬ一作せすころふお結い付くこと平つ  
えうてえうくに打巻せむらうの申すなすふくば申す  
あふれ一巻せそりしころり入連すれぬもたに  
りころちちく上り巻そまをほゆるん是をさるじ  
とよの又同体ともよしたんそたん結たしまへんを  
の敷をつのてきたるの巻張たれおあへん金  
けらつてふ巻を入りの巻またのあしすもほゆる  
又あつらよ巻のゆるそをさるころりかへり  
あへ上りあへん巻もほゆるすれり  
まひしそめをけり風を又巻の巻りそを  
えすあり又ころりあへりわらへり

とあはす物つはりけるよも物かへり作のしんけり  
— 套のしめをほりたし— 並書つらむらむたらG67  
とびあやまよ上たた— あら。いんせう  
けいけいしよふもさ— かつしうしよ小套残入連是をな  
のらひしそしや。くしめとほしし— ありくしんせう  
しんしんせうとすよ書サきし程の作の目しあ  
ホウ4しむらうし— 套残角し又あうしんせう  
びんしああめししうしんせうの教と入連是よ套をま

とつしすまが— しんしん國筋しんせうしんせう  
てあ— しんしんしんけり— 子書しよしんせうしんせう  
しんせうしんせう— 又あうしん— 套書をくしんせうあ  
しんせうしんせう— 又あうしんせうしんせうしんせうしんせう  
又あうしんせうしんせうしんせうしんせうしんせうしんせう  
しんせうしんせうしんせうしんせうしんせうしんせうしんせう



中びくハ我ハ世々も昔ヨリ子ノて心ヨクハ一貫ハ我  
事ナラハあるれきつてハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ  
人ノヨクあれもかれハ心ヨクハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ  
ワラテあるハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ  
中びくハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ  
ホヤクハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ  
カハラミクハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ

猿取振口傳の事

猿取振口傳の事  
本ノヨクハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ  
中びくハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ  
ホヤクハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ  
カハラミクハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ一貫ハ











